

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400259
法人名	有限会社 和家
事業所名	グループホーム 蘭
所在地	愛媛県西予市宇和町河内 1 6 6 - 1
自己評価作成日	平成 2 5 年 1 2 月 2 日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年1月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者さんが、ご家族や地域の方たちとの繋がりを大切にしながら、その人がその人らしく過ごせるように、また、可能な限り力を発揮出来る場面をより多く持てるよう支援しております。特に地域の行事には参加させていただき、保育所や小学校との交流を大切にしております。また、天気の良い日には畑や花の手入れ、散歩がてらに近くのお店に買い物に出かけるなどして楽しみや役割を見つけながら、家庭的な雰囲気の中で、その人がその人らしく「尊厳のある生活」を、ゆったりとご本人にペースで過ごせるように職員が一丸となって努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人代表者は、地域貢献の思いを込めて「地域になくはないホーム」を作ることを目指し、事業所を開設しておられ、ユニット増設の際には、地元の方が優先的に利用できるようすすめられた。事業所は、地域行事を大切にしている。地域行事の際には、地域の文化祭時には、利用者の短歌を出展されたり、バザーや餅まき等を楽しまれた。又、地域の盆踊りや牛鬼まつり等も、利用者が楽しみにされている行事である。居間から利用者の目の高さで保育園の園庭を眺めることができ、窓越しに園児とふれ合っておられる。事業所の畑で一緒にさつま芋畑をして交流している様子は、愛媛新聞にも取り上げられた。  
2ユニットが併設しており、中庭には畑や芝生のスペースがあり、季節の良い時期にはバーベキュー等も楽しんでいる。第三日曜日に行う「茶らんぼらん」は、ユニット間にある地域交流ルームにて、2ユニット合同でおやつを楽しみながら交流する機会であり、とうもろこしを焼いて食べたり、かき氷を作ったり、時には、運営推進会議に協力して下さっている地域の方が、抹茶を点ててくださることもある。調査訪問時、窓から保育園の園児が園庭で雪遊びをしている様子がよく見え、利用者は窓辺で職員と一緒に笑顔で眺めておられた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム蘭

(ユニット名) 1棟

記入者(管理者)

氏名 谷本 茂樹

評価完了日 25年 12月 2日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自の理念を掲示し、皆で覚え共有しながら実践に繋げる努力をしているが、日々のマンネリ化と新しい職員が増えたことで、十分に浸透していないし共有出来ていない面もある。 (外部評価) 開設時に、法人代表者が作成された「生き生きさせてあげる輝かせてあげる」「職員もケアすることにより人間的にともに成長する」等、5項目の事業所理念は、新人研修時に説明されており、職員会議時には理念を覚えているか等を確認する機会を持っておられる。又、管理者は、職員が理念とケアをつなげて考えられるよう、日々のケアの場面を捉えて話すよう努めておられる。職員によっては、理念をカードに書いて携帯している方もおられた。	事業所は、昨年5月に1ユニットを増設され、新しい職員も増えている。職員はもちろん、ご家族や地域の方達にも機会あるごとに事業所理念を伝えて、今後はさらに、チームで利用者を支えていけるよう、取り組まれてほしい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域資源(地区の行事の参加、保育園、小学校との交流、公民館、Aコープ、魚屋、牛乳屋など)を利用し交流している。また、地域の方に出会うと、こちらから声をかけるようにし、話しをしている。運営推進委員にも地域の方になってもらっている。 (外部評価) 法人代表者は、地域貢献の思いを込めて「地域になくてはならないホーム」を作ることを目指し、事業所を開設しておられ、ユニット増設の際には、地元の方が優先的に利用できるようすすめられた。事業所は、地域行事を大切にして取り組まれており、地域の文化祭時には、利用者の短歌を出展されたり、バザーや餅まき等を楽しまれた。又、地域の盆踊りや牛鬼まつり等も利用者が楽しみにされている行事である。居間から利用者の目の高さで保育園の園庭を眺めることができ、窓越しに園児とふれ合っておられる。事業所の畑で一緒にさつま芋堀をして交流している様子は、愛媛新聞にも取り上げられた。事業所では今後、地域の認知症ケアの向上を目指して、認知症についての講演を行う等、情報発信に取り組んでいきたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ボランティアの受け入れ、地域の方、小学校、保育園などとの交流を通じて事業者から発信しているが、今後は別の形も考えていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開所して8年間がたち、事業所に対しての意見、事業所の悩みは少なくなってきたが、悩みやアドバイスがあれば解決に向けて一緒に考えていただいている。また、8年間という付き合いの中で、事業所の運営にも理解をいただき、何か事には協力をしていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進委員を決めて、会議をすすめておられる。法人代表者も会議に参加し挨拶をされており、事業所から利用者の状況や活動を報告して、意見交換を行っておられる。参加者は、地域の情報や新聞等から得た情報を教えてくださったり、事業所の取り組みへの提案等も活発に出されている。新人職員紹介の機会も作っておられ、参加者の前で「事業所に勤めるようになり、自分の親にもやさしく接することができるようになった」ことを話された職員もいる。ご家族代表の方で、「会議に参加することで、他の利用者の方ともお話ができて参考になる」と話された方もある。地域の方は「忙しい時にはお手伝いに来ますので声をかけてください」と言ってくれている方がいる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、実情を報告している。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月ごとに介護相談員の訪問があり、利用者とお話をして希望や悩み事等を聞いてくれている。運営推進会議の災害について話し合った際には、市の担当者から「原子力災害マニュアル」の作成について指導いただいた。地域密着型サービス協会が主催する職員研修には、積極的に参加できるよう取り組まれている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束禁止の対象となる具体的な行為に関することはしていないが、職員の都合で外に出ないようお願いすることがある。昼間は玄関の施錠はしていない、夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 転倒が気になる方は、畳を敷いた上に布団を敷き、休めるようにされている。「帰りたい」気持ちが強く、不安定な状態の兆候がみられる時には、得意な家事をお願いしたり、ドライブ等して気分転換できるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  気付かない内に言葉の虐待はあるかもしれないが、注意を払い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修会に参加し学ぶ機会を持っているが、今まで、活用される場面がない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  管理者や事務長が十分説明し、納得してもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時などを利用して聞く様になっているが、ご家族からほとんど意見が出てこない、意見があった場合は職員会等で共有するようにしている。また入所時に、意見や苦情が言いにくい場合は市役所など第三者を利用することができることも説明している。  (外部評価)  ご家族同士の親睦やご家族と利用者が一緒に楽しめるよう、年に2回、冬と春に家族会を行っておられる。冬は、クリスマスと忘年会を兼ねて、うどん作り等、楽しい企画を用意して、ご家族同士、又、利用者とも話しやすい雰囲気を作っておられる。春は、お弁当を持って出かけておられる。ユニットが増設して、ご家族から「職員の異動を頻繁にしてほしくない」というような意見もあったようだ。ご家族には、事業所全体の活動を載せた便りと、利用者個別の様子を伝える便りを送付されており、ご家族に好評である。	事業所では、家族会時さらに、ご家族だけで話し合う機会を作り、事業所サービスへの要望を出しやすいよう、取り組みたいと考えておられる。協力的なご家族も多く、ご家族とともに利用者を支えていくためにも、ご家族と一緒に活動したり、時には、勉強するような機会も工夫されてみてはどうだろうか。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			施設長が毎月の職員会や必要に応じて提案や相談に応じていただいているし、日々の業務の中で管理者に相談できるし、急ぐときは週に1回の意見交換(あのね)、連絡帳で周知し改善している。	
			(外部評価)	
			法人代表者は毎日来られており、利用者個々に声をかけながら様子を見てくれている。又、職員からの意見等も聞いてくれている。土曜日の午後から職員が集まり、「あのね」の時間を持っており、個々に日頃気付いたこと等を話し合い、ケアに採り入れるようにされている。職員は、地域密着型サービス協会が主催する相互研修に参加し、他事業所に訪問して事業所と違う取り組みを知り、勉強をされた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			就業環境の整備は十分努めていただいているし、処遇改善手当や賞与により実績や業務状況を反映していただいている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会の研修会に参加させていただき、その他の研修情報も周知するようにされている。また、スキルアップのための個々に合わせた研修に参加させてもらっている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			同業者との交流はあまり出来ていない。相互研修の参加や、その他の研修に参加したときに個人個人で交流を行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に管理者が行い、入所後はご本人との会話、面会時、日々の介護の中で得た情報を職員会等で共有しながら関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してもらえるように密に連絡し、面会時、毎月の近況報告等で関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、特にご家族に聞き、職員間で共有しながら努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中でお互いが助け合える場面を作り、一緒に達成感を味わうことで良い関係を作っている。また、関係作りの難しい方でも、居てもらっただけで助かっていることを言葉や態度で伝えご利用者さんが居心地よく生活できるように気を付けている	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係が途切れないように、毎月の通信、面会時には日常の報告を行い信頼関係を深めるようにしている。また、ご利用者さんに電話をしてもらったり、必要に応じてご家族にお願いをしたりして、共にご本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの散髪屋、墓参り、関係が途切れないように電話や会いに出かけたりしている。また、面会に来やすいように明るい挨拶やゆっくり話せるように雰囲気作りや場所を考慮している。	
			(外部評価) ドライブの際、ご自宅の近くを通ったり、「帰りたい」という利用者につき添ってご自宅に戻り、庭でお話しながら過ごされることもある。昼食時には、地元の地名等が会話の中に出て会話も弾んでおられた。親戚やご家族等に年賀状を出したり、電話で話せるよう支援されている。ユニットによっては、ほとんどの利用者がお正月をご自宅でご家族と過ごされたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者さんの出来ること、難しいこと、気の合う人、合わない人などを把握し、お互いが支えあえるように活動や作業を一緒にしていただきながら喜びや達成感を共有してもらっている。	
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された場合は面会し、ご家族の要望があれば相談に応じながら関係性を絶たない様になっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人とご家族から生活歴や希望を聞き、集団生活という制限のある中で可能な限り希望に添える様に、ご本人、ご家族と話し合っ決めていく。また、月1回のカンファレンスで職員全員でモニタリングして改善に努めている。 (外部評価) 増設したユニットには、納得いかないまま入居に至ったような利用者もおられ、ご自宅のことが気になる利用者も複数おられる。職員は、利用者により寄り添いお話を聞き取り、気分転換できるように支援されたり、時には、ご家族に気持ちをお伝えする等して、ご自宅で過ごす時間を作る等、協力いただくようなこともある。	管理者は、利用者が「何を望んでいるか、希望等を知りたい」と考えておられる。さらに、利用者一人ひとりについて、現在の暮らしの希望やこれまでの暮らしぶり、又、今後の暮らしの希望等の情報を集め、利用者らしい暮らしを続けられるような支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に本人、ご家族、他のサービス提供者などから把握に努め、不十分な所や情報と違っているところなどは、日々のケアの中で本人から聞いたり、随時、ご家族から聞き把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 会話、バイタルサイン、表情、食欲、申し送りなどで把握し、週1回のミニ職員会(あのね)と月1回の職員会などで話し合っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご利用者さんの担当者を決め、ご本人、ご家族、日々の会話の中で情報を把握し、カンファレンス、職員会で職員の意見交換を元に作成し、必要に応じて看護師、主治医の意見を聞きながら介護計画の参考にしている。</p> <p>(外部評価) 職員で話し合い介護計画を作成し、ご家族に意見を聞くようになっていっている。毎月、職員会時にモニタリングを行い、見直しにつなげておられる。記録用紙には、介護計画の支援内容を記入して日々の支援につなげる仕組みを作っておられる。今後は、ご家族も一緒に利用者の暮らしやケアについて話し合うような機会を作り、ご家族と一緒に利用者を支えていけるよう、取り組みをすすめていかれてはどうか。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の介護記録に記入し、申し送り、連絡帳、職員会で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 当事業所の特色でもある立地条件を活かし、近くの保育園、小学校との交流を行っている。個別では通院、散髪、ドライブ、買い物に行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) Aコープ、保育園、小学校、公民館との交流を通じて豊かな暮らしを楽しむようになっているが、ご利用者さんの十分な思いとはいかないかもしれない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 出来る範囲で本人の希望を大切にしながら馴染みの医療機関に受信している。また、かかりつけ医との関係は開設時から続いており信頼関係も厚く、急変時には24時間いつでも携帯に連絡でき往診に来てもらっている。	
			(外部評価) 近くにある医院がかかりつけ医になっており、往診にも来てくれるようになっていた。調査訪問時、職員は、処方された薬の小袋にご自分で名前を書けるよう支援されていた。食前に口腔体操を行ったり、3時のおやつの前には音楽に合わせて体操を行っておられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日のバイタルサインや日常の関わりの中で、よく観察し些細な変化も看護師に相談し夜間も異常時は看護師と相談できる体制になっている。必要があれば看護師はかかりつけ医と相談している	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ・利用者が入院した際、グループホームでの生活状況を詳細に伝え安心、安全に治療に専念できるようにしているが、環境の変化により不穏になられることが多い。面会等を通じ、利用者の安心、病院関係者との関係づくりに努めている	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期(看取りケア)に向けた方針等は入所時に説明し、ご利用者さんご家族との信頼関係を築きながら、面会時に徐々に身体機能が低下することを伝え、終末期を意識した方針を決めてもらえる様、色々アドバイスしている。また、看取りケアを行う時は主治医、看護師、職員、そして、なによりご家族の協力を得ながら支援に取り組む方針。	
			(外部評価) この2年の間には、看取りを支援した事例はないが、事業所では利用者やご家族の希望に応じて支援できるよう、体制を作っておられる。現在、「ここで」と希望される利用者やご家族も多いようだ。増設されたユニットでは、ご家族や利用者との信頼関係作りをすすめ、じょじょに看取りの希望等についても聞き取りたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に訓練を行っているが、緊急時に対応できる自信はない。その為に、日々の状態を観察しながら心構えをし、主治医、看護師との協力体制に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月の避難訓練や年1回の消防署を迎えての訓練を行っている。運営推進委員にも協力をいただいている。しかし、夜間を想定した避難訓練の頻度が少ないのが課題。 (外部評価) 運営推進会議のメンバーに利用者役になってもらい、職員が避難誘導する訓練を行ったり、見学していただき意見をうかがった。地域の方からは、「いざという時に誰から連絡が入り、どう動いたらよいか」と質問があり、協力が得られるよう、具体的な話し合いを行われた。避難訓練を実施しての課題は、近々行う職員会議時に話し合い、方策を検討する予定になっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会での研修会や各研修会に参加し介護職員としての資質の向上に努めているが、馴れ合いのなかで失礼なことを言ってしまうことがあるかもしれない。 (外部評価) ご夫婦隣同士で座れるよう座席に配慮されたり、地元からの利用者で以前からの関係を気にされるような方にも気を配り対応されている。家族会時、ご家族の参加が難しい場合は、担当する職員が終始利用者につき添い、さみしさをカバーできるよう努めておられる。夜間等、「何でここにおるんやろ」と不安を口にする方には職員がゆっくりお話を聞き、寄り添うようにされている。職員が利用者の手を引いたり、側で見守りながら、できるだけ歩けるような支援に努力をされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り働きかけはしているが、どうしても業務中心になったり、職員の気持ち優先されたりする場面もある。自己決定の難しくなってきた人には、その人の気持ちになって考え、馴染みの生活、入所時の生活を送れるように努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者さんのペースを大切にしているが、ご利用者さん によって、来ている人、難しい人がある。また、職員の都合に なっている時もあるが、出来る限り一人ひとりの希望に添って 支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 自分で選ばれる方もおられるし、難しい方には一緒に選ん だり、その方の気持ちになって考えたりして支援している。ま た、衣類の乱れや汚れ、髪、髭などさり気なく声を掛けたり直 している。散髪は馴染みの店や、馴染みの髪型、施設カット にならないように、2か月に1回と必要に応じて出張美容に來 ていただき、毛染めやパーマを楽しんでおられる方もある。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ、盛り付け、片づけ、味見等、ご利用者さんの出 来る範囲でお互いが協力しながら手伝ってもらい、同じテー ブルで楽しみながら食事をしていただけるよう支援している。 (外部評価) 食材は配達してもらうようになっており、庭の畑でできた野菜 等も使って、職員と利用者でメニューを考ながら食事を作っ ておられる。台所は、オープンキッチンで調査訪問時には、 利用者も野菜を切ったり配膳したり、食後には食器を洗う方 が複数おられた。皆が席に着くと利用者のお一人が「いた だきます」と挨拶のかけ声をかけ、食事が始まった。ゆっくり食 事時間を取っておられ、職員は「カレーもってかけますか」と 利用者個々に声をかけて、おかわりをすすめておられた。お 誕生日には、好きなメニューでお祝いをされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量、水分量が少ない日や人には、果物を勧めたり、ゼ リーを食べてもらったり、食後のティータイムを楽しんでもらっ ている。また、居室にお茶を持って帰られる方や、自分で入 られる方もある。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後は行っていない。昔から朝はしないとか、昼はしない という方もおられるので、ご本人の希望に合わすようにしてい るが、寝る前だけは全員に勧めに行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表、記録を活用して、排泄パターンやサインの把握に努め、さりげなく声をかけたり、トイレへ案内している。 (外部評価) 入居当初、下を向いて歩行する様子がみられた方には、居室のベッドの足もとからトイレまで、床に目印の緑色のテープを貼って、夜間にもご自分でトイレに行けるように工夫された。トイレには、利用者個々に合わせ持てるように、碁盤の目になっている手すりが設置されていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に良いと言われる食材を献立に入れたり、水分補給、運動に努めている。それでも改善できない方は、主治医、看護師に相談し、その人の排便習慣や腹部の張りを見ながら、腹部マッサージや主治医、看護師に相談して下剤で調整したり、浣腸をする場合もある。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本、2日に1回、入浴の声掛けを行い入浴を楽しんでもらっている。また、人によっては毎日入られる方もいるし、お風呂の嫌いな方は3日に1回の方もいる。しかし、お風呂の嫌いな方で1週間以上入られない方には無理にお願いすることもあるし、職員の配置の関係で寝る前、夜間の入浴は断っている。 (外部評価) 事業所で最高齢の方はお風呂がお好きで、希望もあり毎日入浴を支援されている。調査訪問時には、昼食後、お話の中で職員は利用者に入浴の有無を聞いておられ、入浴前には、ご自分で準備をする方や、職員が「居室に入って入浴の準備をしても大丈夫ですか」と聞いて準備をされていた。利用者は、みな浴槽で温まれるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日その人の状況、状態に合わせて休憩をしてもらったり、夜間は人によっては居室でテレビを楽しんだりされる方もいるし、どうしても眠れない方は眠たくなるまでリビングで過ごしてもらったりもしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 理解、確認に努めているが、容量、副作用など覚えきれないので、内服薬のファイルを個別に作成し、いつでも確認出来るようにしている。変更があればファイルや申し送り、連絡帳で共有している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理、洗濯、炊事、畑仕事で役割をつくり、日中はカラオケ、散歩、買い物など気分転換等の支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その方の、どんな希望かにもよるが、勤務人数に余裕があれば希望に添う様に努めている。また、ご家族の力を借りれる時はお願いしている。しかし、一人ひとりの、その日の急な希望を叶えるのはかなり難しいが、天気の良い日には外に出られるよう努めている。	
			(外部評価) 市内の道の駅に出かけたり、古い街並みに行灯をともし「卯のぼたる」には、事業所からも行灯を出して、皆で見に行かれている。	職員は「利用者といろいろなところに出かけて、いろいろなものを見せてあげたい」と話しておられた。利用者個々の「出かけた」という意欲を支援していけるような取り組みをすすめていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者さんに応じたお金の管理、買い物時の支払い等が出来るよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望があり、ご家族や大切な方が了解していただけるなら、いつでも連絡が出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) いつも清潔には気を配り、同じものが同じ所にあり、「便所」など分かりやすく明記し、季節の花や果物で季節を感じてもらいながら温度計や体感で温度調節を行っている。	
			(外部評価) 玄関を入ったところには、利用者の方が花器に剣山でお正月のお花を生けてくださった。居間には神棚をつくっておられ、お正月には鏡餅を供える等された。2ユニットが併設しており、中庭には畑や芝生のスペースがあり、季節の良い時期にはバーベキュー等も楽しまれている。第三日曜日に行う「茶らんぼらん」は、ユニット間にある地域交流ルームにて、2ユニット合同でおやつを楽しみながら交流する機会であり、とうもろこしを焼いて食べたり、かき氷を作ったり、時には、運営推進会議に協力して下さっている地域の方が、抹茶を点ててくださることもある。調査訪問時、窓から保育園の園児が園庭で雪遊びをしている様子がよく見え、利用者は窓辺で職員と一緒に笑顔で眺めておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビ前のソファで横になったり、ちょっとした話ができるようにトイレ前や静かになれる場所にソファを置いたり、畳の部屋で腰を掛け2~3人話をされている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使いやすい家具、ベッドの位置、畳を敷かれている方も、そして、思い出の写真、趣味の作品や花を飾られていたり、家から位牌を持ってこられている方もある。	
			(外部評価) クリスマス時期に、地域の小学4年生の児童が持って来てくれた手作りのツリーを大切に飾っている居室も見られた。仏壇を持って来られている方は、利用者がお水を替えたり、職員がお茶を用意して供えたりされている。お花がお好きな利用者には、ご家族が毎週新しい花を持参しておられ、調査訪問時には、白いカスミソウとピンクのカーネーションが生けてあった。利用者へ届いた年賀状も置いておられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご利用者さんのことを考え、ご本人やご家族、職員とで相談しながらご利用者さんの歩行状態に応じた席替え、ポータブルトイレ、サイドバー等、時に福祉用具を活用し安全で自立した生活が送れるよう環境作りに努めている。	